

民報 ゆうばり

H26年度第1回定例議会開催

再生計画の期間短縮に向けて住民自治の力を!



3月13・14日の両日、3月議会の大綱質問が行われました。日本共産党のくまがい桂子市議の質問をご紹介します。

◆ ◆ ◆ 計画の期間短縮にむけて

質問1

財政再生計画の期間短縮について、国や道との協議内容、現状と見通し、償還財源の確保の具体策は。

答弁1

一昨年、三者協議の後、実務者との懇談の中で、計画の期間短縮に結びつく財政支援について、国・道に対し強く要望した。国側からは「財政再生計画の期間短縮が夕張市民の悲願であることが認

識でき、それがうまく可能な形になるよう引き続き毎年度様々な協議の中で考えていきたい」との発言。昨年も、国側から「できるだけ早く財政再生団体を卒業したいという思いを受け止めつつ、CBM(炭層メタンガス)等の

取組みを計画に盛り込んで、活力あるまちづくりを進めていくという努力に対し、真摯に協議を通じて議論させていただいた。という前向きな発言。昨年3月、新藤総務大臣・高橋はるみ知事が来夕の折、期間短縮に結びつく支援に対し要望したところ、大臣からは「厳しい財政体制を維持していくことと、地域の活性化、この二つの協議を続けていく」という発言をい

ただき、再生団体を早く脱却することは、三者共通の思いであることを改めて確認した。

市内視察などを通じて、夕張の現状を把握の上、地域再生のための事業の実施と期間短縮の重要性について説明してきたため、深

い議論の必要性が理解されたと考える。償還財源の確保については、当市の人口減少、少、税収の減少が見込まれる中、財政の再建と地域の再生を同時に図るため、必要な財源確保の方策について、国・道と協議を進め、再生計画の着実な推進に取り組み。

「償還財源の確保」が今後の「市民サービスの低下」や「住民負担を増やす」のではなく、国や道との協議の内容であることを確認した。

又、計画の期間短縮が国・道と共通の思いというところで、市長の「期間短縮の信念」に沿って、ぜひ、がんばっていただきたい。

学校支援ボランティアの現状と問題点、今後の方策について。

学校教育支援地域本部事業として、多大なるご支援に深く感謝している。現状としては、高齢化が進み、活動の幅を広げるのは難しいことから、PTAとの連携や保護者を含めた連携も視野に検討を進めたい。

学校支援ボランティアが不可欠な環境の充実」が不可欠

で、雇用の場の創出も重要。全力で市政運営にあたりたい。

旧夕張小と旧緑小にできる民間施設「とよかん」と協同し、市内に設置されていない児童館のような居場所づくりも含め、今後増加が見込まれる放射線量の高い地域からの移住者にもアピールできるまちづくり、そして「夕張に必要であるが、不足しているもの」を見つけて、雇用につなげるような取り組みを期待する。

石炭博物館の活用と炭鉱遺産の保存・活用について

昨年6月、あらたに夕張市郷土文化施設設置条例をつくり、教育委員会としても、博物館施設に積極的にいかかり、学びの場として、子どもや生涯学習活動ができるよう、指定管理者と協議のうえ検討していきたい。

市民団体主催の学習会との連携・石炭とは何かなど、わかりやすい表示をするなど、親しみやすい施設として活用していきたいと、いろいろ準備を進めている。炭鉱遺産の保存・活用については、市指定文化財である採炭救国鉱夫の像の老朽化が著しいため、応急

学校支援ボランティア

質問3

学校教育支援地域本部事業として、多大なるご支援に深く感謝している。現状としては、高齢化が進み、活動の幅を広げるのは難しいことから、PTAとの連携や保護者を含めた連携も視野に検討を進めたい。

答弁3

学校支援ボランティアが不可欠な環境の充実」が不可欠

子育て・若者世代の定住を

質問2

子育て世代・若者世代の定住に向けた具体的な対策は。

本市の人口減少は「まちの魅力」が問われているということ。「住宅・医療・交通・子育て環境の充実」が不可欠

ア心得にもあるように、処理を実施。坑口や他の炭鉱遺産群についても状況を確認しながら後世に残す貴重な施設として活用していきたい。

博物館の応援団である「友の会」制度をつくり、ボランティア・サポーターとして、子どもや利用者たちの活動の場の充実を。

◆ ◆ ◆ 最後にくまがい桂子市議は、「財政破たんから7年が経過した。過疎化した夕張から、数千人が安心して暮らせるまちに向け、国や道の力を借りながら確かな歩みが始まっている。次は計画の期間短縮に向けて、どれだけの多くの住民が自治の力を発揮して、財政破綻の国や道の責任を明らかにし、再生計画の期間短縮に向けて力を強く動き出せるかが問われている。まちづくりの基本である住民自治を学び、たくさんの方で、大きな力で市長の背中を押せるよう、最大限の努力をしたい。」と締めくくりました。

夕張市文化協会 三賞授与式開催



3 月 29 日、平成 25 年度夕張市文化協会三賞授与式がホテル・シニョーパロで 80 余名が出席し、開催されました。

今年度は、
【文化協会賞】ユウパニコザクラの会、
【市長奨励賞】夕張短歌研究会、
【教育長奨励賞】夕張歌留多愛好会、
【文化協会奨励賞】

コールポピー、
コールリラ、
の五団体がそれぞれ受賞しました。
三賞授与後、主催

葛岡 章の 夕張歴史散歩

北海道のメーデーは、

夕張が最初だった！

日本のメーデーは、1920年(大正9年)5月2日、上野公園に約1万人が参加して開かれたのが第1回メーデーとなっています。北海道では、組織的なメーデーとして1926年(大正15年)の小樽と函館でのメーデーが最初とされています。小樽・函館ではメーデー集会和デモ行進が行われてい

ます。
特に小樽のメーデーはよく知られていて、手宮公園に小樽合同労組を中心に約2000名の労働者が朝鮮人労働者も一緒に集会を開きデモ行進を行っています。その中には数名の婦人も参加していました。

なんと、これよりも早く夕張ではメーデーが行われている

夕張では、東京で日本最初のメーデー開かれた5月2日に「夕張支部連合会」の労働者数十名によってメーデーらしき行事が行われていました。彼らはメーデー歌を合唱しながら鉱山事務所の塀付近まで行進をおこない、そこで万歳を三唱して解散しています。

夕張市史には「日本最初のメーデー(5月2日)に参加し氣勢を挙げている(北海道ではじめて)」とあります。

こうみると夕張では、小樽よりも6年も早くメーデーが行われています。一部記録には「らしき行事」とありますが、「メーデー歌を合唱」となれば、これはメーデーとみて良いでしょう。

者、来賓の夕張市長、氏が謝辞をのべまし踊、「コールポピー」議長、教育長からのた。

あいさつがあり、受 祝宴では「夕張歌れ、会場全体で受賞者を代表して「ユ 留多愛好会」の対戦を祝いました。

ウパニコザクラの 実演、「ユウパニコザクラの会」の日本舞



国会「かけある記」

日本共産党 参議院議員

紙 智子

安倍総理がすすめる「農政改革」に未来はない

予算委員会で三十五分間、質問しました。安倍総理がイスのダボスで「四十年以上続いてきた米の減反を廃止します。民間企業が支障なく農業に参入し、作りたい作物を需給の人為的コントロール抜きに作れる時代がやってくる」と演説した事は、安倍政権が、いかに、農家や地域を見ずに、企業の要求を優先しているかを示すものでした。これに抵抗するものは「岩盤」として破壊するとまで発言。この立場ですすめる「農政改革」には、未来はありません。

私は、自民党の市場まかせの農政で農家所得を減らしてきたところに原因があることを突きつけ、こうした農政の転換を求めました。今年に国連が定めた「家族農業年」です。国際社会の大勢は家族経営で支えられてきたこと、家族経営を柱にしてきた日本こそ重視して取り組むべきと主張しました。安倍総理は「家族経営を大事にする」というのは、自民党の政策だ」と発言しましたが、やろうとしていることは、真逆です。

「農政改革」で、米の直接支払いを十アールあたり一万五千円から七千五百円に半減し、四年後に廃止することでますます減収になることなど、現場では「所得倍増政策ではなく、所得激減だ」「農業を見て、農民と地域を見ていない政策だ」と批判があることをぶつけました。

テレビを見ていたひとから、「家族農業を取り上げてくれてうれしかった」など反応がありました。それにしても、矛盾したことを平気で言う安倍首相には、あきれます。